



雪道の登下校について



山々もすっかり白くなり、冬の訪れを感じる季節となりました。今回は、雪道の登下校について、気を付けることや配慮のポイントをお伝えします。弱視児童へご指導いただくとともに、家庭と連携し、児童が安全に雪道を歩くスキルを身に付けることができるようにしましょう。

(1) 通学路の変化

- ・積雪や除雪で通学路の幅が狭くなったり、形が変わったりします。また、点字ブロックが雪に覆われることもあります。
- ・気温によって柔らかい雪のときもあれば、凍ってすべりやすくなることもあります。
- ・あたり一面が真っ白になり、目印になっているものが隠れて見えなくなることがあります。見え方によっては、まぶしく感じることもあるかもしれません。

(2) 音の聞こえ方

- ・雪の降り方によって、音の聞こえかたが変わります。周囲の音が消されてしまったり、凍り付いたときには大きく響いたりすることがあります。



(3) 雪道を安全に歩くために

○通学路の点検をしましょう

冬の様々な天候を想定しながら、危険な箇所がないか歩いて確認しましょう。登下校の時間における自動車や自転車の交通量、道路の幅や軒下、見通しの変化など、注意すべきことを事前にチェックしておくことで確認がスムーズになります。

○雪にそなえた服装を

- ・冬は特に一歩一歩確かめながら歩きます。滑りにくい靴を履きましょう。
- ・周囲の音を確認することができるように耳を覆わない帽子を着用しましょう。
- ・日没が早くなります。足元を照らしたり、自分の存在を周りに知らせたりするためにもペンライトを持ち歩くとよいでしょう。
- ・まぶしさを軽減する必要がある場合には、遮光眼鏡を着用するとよいでしょう。ただし、日陰ではより暗くなるため、このときにははずすということの指導が必要です。